



こんにちは  
じょう  
**城**

日本共産党

堺市議会報告

**勝行**です

2007年 10月/No.25号  
南区美木多上322  
Tel. 297-1777  
日本共産党堺市議団  
地域連絡事務所

議員の海外視察

**5年ぶりに復活?!**

9月28日の市議会本会議に、来年2月に5人の議員をドイツに視察派遣する議案を民主、自民、クリエイティブ・フェニックス議員団が提案し、公明党、プロジェクト堺も賛成して可決。5年間中止していた議員の海外視察が再開されることになりました。皆さんどう思われます?

**これまでの経過を無視した多数の横暴!**

市議会海外視察は、平成四年から再開していましたが、平成十五年にSARSの流行などを理由に中止しました。その年の十二月議会に市民から「海外視察の中止を求める陳情書」が提出され、「今後、議会のあり方に関する調査特別委員会を検討する」と回答しました。しかし、特別委員会では結論が出ませんでした。平成十七年、フェニックス民主議員団と自由民主党市民クラブからそれぞれ海外視察の提案がありました。そのときも意見がまとまらず、提案者自ら「海外視察については、議会運営委員会において、研修結果を広く公表する等の改善すべき事項を研究料はダントツの一位です。他の全ての政令市で行っている一般会計からの基準外繰り入れがなく、政令市で一番高い保険料を払わされて累積赤字の穴埋めをしてきたことになりました。一方、保険料を値上げしたことで収納率が

**国保問題を考える⑤**

堺市の国保財政は、大幅値上げをした平成十四年に六億七千七百万円の黒字に転じました。十五年(三億三千二百万円)十六年(八億二千五百万円)十七年(六千九百万円)と黒字を続け、十八年は、八千八百万円の僅かに赤字になりました。だが、五年間で約十九億円の黒字です。五十九億円の累積赤字が四十億円に減少しています。一人当たりの年間平均医療費は三十七万六千円で政令市中九位です。保険料収納率は、八十八・四%でこれも九位です。ところが保

低下している現状を見れば、

払っている人と払えない人の不公平感はありません。まずやらなければならぬのは、他市と同様に一般会計から繰り入れて、せめて政令市平均並の保険料に引き下げることでしよう。

修効果をあげる為に充実すべき事項等、実施に当たっては様々な意見があり、今後、これらの課題を充分に検討し、全会一致で実施できる制度を構築すべきであり、そのような観点から、派遣については見送りたい」と表明していました。ところが、今回、自らの発言を棚上げて、これまでの経過と市民の思いを無視して与党多数で海外視察再開を強引に押し通したのです。

**日本共産党市議団の考えは**

わが党は、海外視察全てに反対しているわけではありません。日本と外国では、歴史的経過や文化、国の成り立ち、国情が違うことから、本市の市政運営に生かす上で、その必要性と目的を明確にし、何を学び生かすのか具体的な施策と照らし合わせてその内容を明らかにすることが大事だと考えます。また、相当多額な費用を要することから慎重な検討が必要であり、市民に充分理解されることが大事だと考えます。

**海外視察議案を強行可決した議員が市民の切実な願いにソッポ!**

政令市で一番高い「国保・介護保険料の引き下げ」や「市立堺商業高校を廃止しないでほしい」など市民

**海外視察実施の議案に対する賛否**

	提案	賛否		提案	賛否
城 勝行	×	×	西林 克敏	○	○
源中みおこ	×	×	土師 純一	○	○
田中 丈悦	×	×	吉川 敏文	×	○
中井 國芳	○	○	田淵 和夫	×	○
小堀 清次	○	○	本松 洋一	○	○

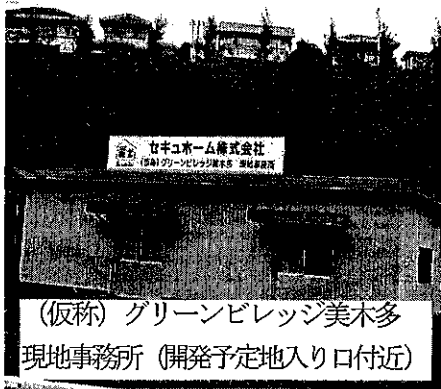
**本会議場でこんな場面がありました**

の切実な請願をことごとく否決し、多くの市民から疑問視されている海外視察の復活を強行する議案と与党の本質があらわになりました。今度は、二十三万筆も寄せられた市立幼稚園止反対の市民の声にどう対応するのでしょうか。

H議員が、南区のM議員のホームページに「公費丸抱えの海外視察は反対と書いてあるのに何故提案者になり賛成するのか?」と本会議場で本人に質問しました。M議員は「自分の考えはあるが会派の意向で」といったふうなことでしよう。

# 美木多地区下水管敷設で

# 動き出した大規模開発?!



## 美木多地区の大規模住宅開発?

一九八六年、美木多上南地区伏見谷の山林を造成して住宅五百戸を建設する計画が持ちあがり、地元では、自然環境や汚水による河川や農業用水への影響、交通や騒音、学校の受け入れなど多くの問題があることから「美木多地区開発問題を考える会」が結成され、短期間に三千五百筆を超える署名が添えられ市議会、府議会に陳情書が提出されるなど運動と話し合いがすすめられました。

## 住民の運動で多くの成果を得ながら決着

この取り組みは、地元自治会の粘り強い話し合いと「考える会」の原則的で正当な運動(要

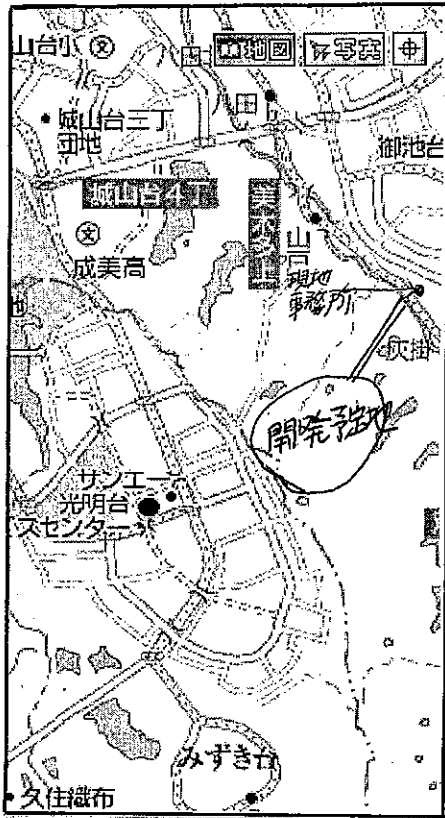
求)と連携して広範な人々の支持を得て大きく広がりました。

そんな中、一九九一年九月に地元自治会は開発業者と、下水道本官を府道別所草部線から泉北北線まで敷設することなど、五十数項目の「協定書」を交わして開発に合意するに至りました。

## 開発者が敷設する下水道を堺市が...

美木多地区の下水道は開発の条件で業者が敷設することになっていきましたが進みませんでした。堺市が下水管を敷設したことで開発者の負担が軽くなり計画が動き出すという皮肉な結果になりました。

美木多地区下水道計画は財政難で一旦延期になっていたのが、突然、補正予算を組んで進められることになりました。地元代議士が尽力して実現したのですが、開発促進



## 住民運動を通じて新たな広がり...

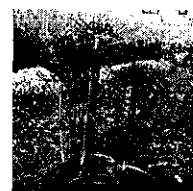
地元自治会との協定は、弁護士が立会い、関係会社六社の連帯保証のもと、開発業者が替わっても継承し違反があれば法廷闘争に持ち込める内容にしています。今後、地元との話し合いが大事です。

## 地元との協定を守らせることが大事

のためではとの声も...

開発問題に取り組みきつかけは、政府がみかんの「減反政策」を打ち出したことからです。みかんの木が切られ、その上に大規模開発が進めば緑も環境も守れないとの思いからでした。開発問題の着地点を見る中で、翌年には「美木多地区開発問題を考える会」は「美木多の自然を守り街づくりを考える会」に名称変更し、自分たちで街づくりを考える新たなスタートとなりました。開発問題に取り組む中で、みかんのオーナー制や市民農園、サンデーバザールの取り組みへと大きく発展しました。

自宅前の田んぼに彼岸花が咲きました。この夏の暑さのせいか去年より少し遅いようです。秋の彼岸のころに咲くのでこの名前がつけられたようで、別名曼珠沙華(マンジュシヤゲ)と言います。花言葉は「悲しき思い出」「想うはあなた」「また会う日を楽しみに」などです。



彼岸花は「毒があるから触るな」と言われ、彼岸、仏さん、お墓と連想してしまい不吉なイメージが焼きついていました。しかし、そうではないんですね。この花を見るといよいよ秋ですね。

「毒があるから触るな」と言われ、彼岸、仏さん、お墓と連想してしまい不吉なイメージが焼きついていました。しかし、そうではないんですね。この花を見るといよいよ秋ですね。